

保育内容「健康」受講後における「健康」保育者効力感と日常生活の関連

The Relationship between the Self-efficacy of Childcare Workers after Taking 15 Hours' "Health" Course and Daily Life

大平 誠也*

Seiya OHIRA

抄 録

本研究の目的は、保育者資格の獲得を目指し、保育内容「健康」を受講する学生（以下、学生と略す）を対象とし、領域「健康」の理解度についての自己評価、領域「健康」に特化した「健康」に対する効力感（以下、「健康」保育者効力感）を測定し、「健康」に関連すると考えられた日常生活との関連を検討することであった。調査に同意した54名を対象に相関分析を行った結果、理解度に対する自己評価の平均値は、6.07（SD：0.77）であり、対応する「健康」保育者効力感の平均値との有意な正の相関が認められた（ $r=0.526$ ）。「健康」保育者効力感と「健康」に関連すると考えられた日常生活では、10項目中、5項目（戸外遊び、楽しんで取り組む、生活リズム、清潔、病気の予防）について正の有意な相関が認められた。

I. はじめに

領域「健康」では、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことが大きなねらいであり、内容の取扱いにあたっては十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすることをはじめ、6点が示されている（厚生労働省、2018）。

本学の保育内容「健康」は、保育者資格の獲得を目指す学生が受講する乳幼児の心身の健康に関する領域を取り扱うものであり、そのシラバスには、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う観点から子どもの育ちを考えていく。そのため、子どもの健康は「体の健康」とともに「心の健康」が大きなウエイトを占めるとされ、①「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」における領域「健康」を踏まえ、子どもの健康に対する基礎的理解を深め、それを育むための具体的な方法を探る、②子どもの健康に関わる7つのキーワード「基本的生活習慣」「遊び」「病気」「怪我」「テレビ」「笑い」「ことばがけ」を一つずつ解説・検証しながら進めていく、③体験型の学習とし、講義で学んだことをそのまま自分の体験にしながら、「知識」としてではなく「経験」として、理解を深めていく、

* 関西国際大学教育学部 教育総合研究所学内研究員

④この授業では、実際の保育実践において指導する場面を想定して、指導計画案（指導案）の作成や教材研究、模擬保育等を組み入れ、実践的な指導力を身につけることを意図して実施し、授業への姿勢や意欲がそのまま正当に評価される講義にしていく」ことが示されている。

ところで、近年、保育者の成長を論ずる視点として「保育者効力感」「保育者アイデンティティ」という語が用いられることが多くなってきている（佐々木・大谷，2016）。保育者効力感は、「保育場面において子どもの発達に望ましい変化をもたらすことができるであろう保育的行為を取ることができる信念」と定義され、「教師効力感」の保育者版ともいわれている（三木・桜井，1998）。丹藤（2005）は、教師の成長に関して、「効力感→教職傾倒→自己成長→知の探究→達成経験→効力感」サイクルを提示し、その中でも達成経験の重要性を指摘した。教師効力感とは目標達成経験（学習者の望ましいとされる変化）の積み重ねのみで恒常的に得られるものではなく、時に苦いマイナスの経験をする中で葛藤や問題意識の克服に至り、それが教師効力感の循環的な変化を推進することで教師の成長が促されると論じており、資質の向上に関連していると考えられる。保育者においては、自己の効力感の高さが、課題や場面の選択、努力量、困難に直面した際の耐性を通じて行動の遂行に影響し（岩崎，2017）、保育者効力感の高いものは実践を活発に行い、努力し、自分の能力をうまく活かすことができ、保育者効力感の低いものは積極的な実践を避けたり、不十分な活動に終始してしまう（西山，2006）ことから、効力感と行動は密接に関連していることが予想される。Bandura（1977）の提唱する社会的学習理論における自己効力感（Self-efficacy）を学生の成長に援用するならば、学生は保育者効力感に影響すると考えられる知識や体験を授業や実習を通して得ることで、保育者効力感が醸成され、日常生活も含めた保育資質が育まれるものと推察される。学生を対象にした保育者効力感についての先行研究では、実習後に保育者効力感が高まること（三木・桜井，1998 前掲）、保育者効力感とは学生生活を通して、途中で一旦低下するが最終的には入学後より高まること（神谷，2006）が報告されている。

保育者効力感の研究には、領域に特化したものもあり、本論で取り扱う「健康」保育者効力感もその一つである。田辺（2011）は、乳幼児を取り巻く健康問題の深刻化を背景に、心身ともに健康な子どもを育むことがこれまで以上に求められていることに着目し、「健康」に対する保育者効力感を「心身ともに健康な子どもを育むためのさまざまな保育行為に対する保育者の信念や実現の見通し」定義し、14項目で構成された「健康」保育者効力感尺度を作成した。「健康」保育者効力感とは、保育者の日常生活から影響を受けている可能性があり（田辺，2011）、向上のために保育者の領域「健康」に関連する日常生活をふりかえり修正することは一つの方法である（斎藤 2018）。現在の生活習慣や生活リズム、疲労感などの健康にかかわる生活状況の調査から、学生は現場で働く保育者と比較すると生活習慣に気を遣った生活をしていない状況である（川畑，2020）。足立・柴崎（2010）は、「保育という営みは保育年数だけで測れるものではない。どのような時期にどのような問題を体験し、どのような模索の中で、どのような再構築が行われたか」について検討することを指摘して

いる。将来、子どもの健康に直接かかわる保育者と期待される学生の「健康」に関する知識や理解、「健康」保育者効力感の現状と日常生活との関連を明らかにし、身近なモデルである経験年数の浅い保育士と比較することは、授業の改善や学生への示唆的な生活改善支援に寄与することが可能になると考えられる。

以上のことから、本研究の目的は、保育士資格の取得を希望する学生を対象として、「健康」に特化した「健康」保育者効力感、領域「健康」の内容に関連する学生の日常生活を質問紙によって測定し、その関連性を検討することであった。

II. 方法

1. 調査対象

調査の対象は、2021年度 保育内容・健康を受講する学生のうち調査に同意し、資料が完全な54名（男4名、女50名）であった。

2. 調査期間

2022年1月

3. 調査方法

研究者が調査を依頼した教員の講義時間中に質問紙を配布し、受講学生に回答を求めた。

4. 倫理的配慮

調査にあたり、調査を依頼する教員に事前に研究の目的を伝え、同意を得た。調査は無記名で行うこと、研究目的以外では使用しないこと、回答の処理を質問紙に示すとともに質問紙配布時にも同様の説明を行い、同意の得られた者のみを対象とした。回答用紙は、依頼された教員が回収し、研究者に返却された。得られたデータは、数値化され原本は融解処理された。この調査は、関西国際大学研究倫理委員会の承認（関西国際大学 研倫委審 第R3-45-01号）を得て実施された。

5. 調査内容

5.1 フェイスシート

性別、年齢を求めた。

5.2 領域「健康」の理解度

領域「健康」の理解度については、十分理解できたかどうかについて、「1：全くそう思わない」「2：そうおもわない」「3：あまりそう思わない」「4：どちらともいえない」「5：少しそう思う」「6：そう思う」「7：非常にそう思う」の7段階による自己評価を求めた。

5.3 「健康」保育者効力感

受講学生の「健康」に対する効力感は、田辺（2011）の保育者効力感尺度の項目をもとに授業内容に合致するよう変更し、7件法にて測定した。以下にその項目を示した（表1）。

5.4 領域「健康」の内容に関連する保育者の日常生活

領域「健康」の内容に関連する保育者の日常生活は、斎藤（2018）の質問項目を引用し、

7件法にて測定した。「健康」保育者効力感のカテゴリは、川畑（2019）の分類を引用した。以下にその項目を示した（表2）。

5.5 分析方法

「健康」保育者効力感の平均値と保育内容「健康」の理解度に対する自己評価得点、「健康」の内容に関連する学生自身の生活状況との関連性を検討するために先行研究（齋藤，2018）と同様に相関分析を実施した。調査に参加した学生のうち男子は4名であったので、属性については分析しなかった。分析には、IBM SPSS Statistics 25.0を用いた。

表1 「健康」保育者効力感尺度の質問項目

カテゴリ	質問項目	講義（回目）との関連
1 安定感	・子どもが友だちとかかわることで充実感や満足感を味わえるように保育する	④⑤⑪⑬⑮
2 身体活動	・子どもが十分に全身を動かし、進んで運動するように援助する	④⑤⑮
3 戸外遊び	・子どもが戸外で過ごすことの心地よさや楽しさを十分に味わえるように保育する	⑤⑮
4 楽しんで取り組む	・子どもの活動への取り組みの様子を見極め、必要に応じて子どもの意欲を喚起するように援助する	②④⑤⑥⑮
5 食育	・子どもが食にかかわる体験を積み、食に興味を持つように保育する	②③⑮
6 生活リズム	・子ども一人一人の生活リズムを把握し、それらに応じながら活動と休息の調和を図り、保育する	②⑪⑫⑮
7	・保護者に子どもが健康な生活リズムを身につけることの大切さを伝え、家庭での生活の仕方についての理解を促す	
8 清潔	・基本的な生活習慣を子ども自ら望んで行うように援助する	②⑮
9	・子どもが社会生活上の習慣や態度を身につけることができるように援助する	
10 見通し	・集団での生活で必要とされるきまりや約束の大切さに子ども自らが気づき自ら守ろうとする態度を育む保育をする	②⑤⑥⑩⑪⑬⑮
11 病気予防	・子どもの体調の変化に気を配り、問題のあった場合には適切に対処する	②⑦⑪⑮
12	・子どもが危険な場所や危険な遊び方を理解し、安全に気を付けて行動できるように保育する	
13 安全	・子どもが交通安全の習慣や災害時の行動の仕方を理解し、身につけることができるように保育する	⑧⑨⑮

表2 領域「健康」の内容に関連する学生の日常生活についての質問項目

カテゴリ	質問項目
1 安定感	なんでも話せる友人や家族がいる
2 身体活動	体を動かすことが好きである
3 戸外遊び	戸外での活動が好きである
4 楽しんで取り組む	学業以外に色々な活動に参加する意欲がある
5 食育	食べるのが好きである
6 生活リズム	普段から健康な生活習慣に気を付け、実践しようとしている
7 清潔	普段から身の回りの清潔に気を付けている
8 見通し	普段からルールやマナーの遵守（決まりを守る）に気を付けている
9 病気予防	普段から健康に関心を持ち、ケガや病気予防に努めている
10 安全	普段から危険情報に敏感で、災害に備えて準備している

カテゴリは川畑（2019）、質問項目は齋藤（2018）を引用

6. 保育内容「健康」の授業内容（シラバス）

保育内容「健康」は、以下の内容で15回にわたって実施された（表3）。その主な内容を表3に示した。

表3 保育内容「健康」のシラバス

回数	内容
1	オリエンテーション：授業の進め方、および「保育内容・健康」についての総論
2	子どもの健康と「基本的生活習慣」その1：食事・排泄・着脱・睡眠の大切さ—幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」(1)—
3	子どもの健康と「基本的生活習慣」その2：子どもに正しい食育を～食は人をよくする～
4	子どもの健康と「あそび」：子どもの心身の成長を促す遊びのいろいろ —幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」(2)—
5	演習「子どもの健康と遊び Part 1：動的遊び」—指導計画の立案と模擬保育による実践(1)—
6	演習「子どもの健康と遊び Part 2：静的遊び」—指導計画の立案と模擬保育による実践(2)—
7	子どもの健康と「病気」：子どもの病気とその予防および処置
8	子どもの健康と「事故・怪我」：子どもの事故・怪我とその防ぎ方と応急処置法
9	演習「学内の危険を発見しよう」+小テスト—健康・安全にかかわる年間指導計画と保育環境・園内環境—
10	子どもの健康と「笑い」 笑い与健康の関係
11	子どもの健康と「ことばがけ」 《ことばがけ》の大切さ
12	子どもの健康と「テレビ」：その功罪と子どもの心身への影響
13	子どもの健康といじめ：心身に悪影響を与えるいじめの防止とその対策
14	指導計画の立案と模擬保育による実践および総括テスト
15	まとめ —幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」の総括—

Ⅲ. 結果

1. 保育内容「健康」の理解度と「健康」保育者効力感の関連性

領域「健康」の理解度に対する自己評価の平均値は、6.07 (SD : 0.77) であった。対応する「健康」保育者効力感の平均値と相関分析を行ったところ、有意な正の相関が認められた。

表 4 保育内容「健康」理解度に対する自己評価と「健康」保育者効力感の関連 (n=54)

	平均	標準偏差	r
理解度	6.07	0.77	
			0.526 **
効力感	5.88	0.73	

**相関は1%水準で有意

2. 「健康」保育者効力感と領域「健康」の内容に関連する学生の日常生活の自己評価

「健康」保育者効力感と領域「健康」の内容に関連する学生の日常生活の自己評価を表5に示した。大部分の項目の平均得点は、5点（ややあてはまる）以上であった。

3. 「健康」保育者効力感と領域「健康」の内容に関連する学生の日常生活の関連性

「健康」保育者効力感と領域「健康」の内容に関連する学生の日常生活の関連性を検討するために、齋藤（2018）と同様に、対応する項目ごとに相関分析（Personの相関係数）を実施した。その結果、以下の5項目（3）戸外遊び、（4）楽しんで取り組む、（6）生活リズム、（8）見通し、（9）病気予防について正の有意な相関が認められた（表5）。

表5 「健康」保育者効力感と領域「健康」の内容に関連する学生の日常生活との関連性

安定感	(1) 先生や友だちと触れ合い安定感を持って行動する	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感① 子どもが友だちとかかわることで充実感や満足感を味わえるように保育する	5.80	0.90	
	学生の日常生活① なんでも話せる友人や家族がいる	6.33	0.80	
身体活動	(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感② 子どもが十分に全身を動かし、進んで運動するように援助する	5.96	0.82	
	学生の日常生活② 体を動かすことが好きである	5.57	1.50	
戸外遊び	(3) 進んで戸外で遊ぶ	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感③ 子どもが戸外で過ごすことの心地よさや楽しさを十分に味わえるように保育する	6.00	0.80	
	学生の日常生活③ 戸外での活動が好きである	5.49	1.28	0.311*
楽しんで取り組む	(4) さまざまな活動に親しみ楽しんで取り組む	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感④ 子どもの活動への取り組みの様子を見極め、必要に応じて子どもの意欲を喚起するように援助する	5.72	0.94	
	学生の日常生活④ 学業以外に色々な活動に参加する意欲がある	5.33	1.47	0.356**
食育	(5) 先生や友だちと食べることを楽しみ食べ物への興味や関心を持つ	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感⑤ 子どもが食にかかわる体験を積み、食に興味を持つように保育する	5.85	0.92	
	学生の日常生活⑤ 食べることが好きである	6.46	0.75	
生活リズム	(6) 健康な生活リズムを身につける	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感⑥ ・子ども一人一人の生活リズムを把握し、それらに応じながら活動と休息の調和を図り、保育する ・保護者に子どもが健康な生活リズムを身につけることの大切さを伝え、家庭での生活の仕方についての理解を促す	5.63	0.95	
	学生の日常生活⑥ 普段から健康な生活習慣に気を付け、実践しようとしている	4.90	1.40	0.327*
清潔	(7) 身の回りを清潔にし衣服の脱着、食事、排せつなどの生活に必要な活動を自分でする	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感⑦ ・基本的な生活習慣を子ども自ら望んで行うように援助する ・子どもが社会生活上の習慣や態度を身につけることができるように援助する	5.84	0.86	
	学生の日常生活⑦ 普段から身の回りの清潔に気をつけている	5.87	1.10	
見通し	(8) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動する	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感⑧ 集団での生活で必要とされるきまりや約束の大切さに子ども自らが気づき自ら守ろうとする態度を育む保育をする	5.96	0.82	
	学生の日常生活⑧ 普段からルールやマナーの遵守（決まりを守る）に気をつけている	6.15	0.81	0.404**
病気予防	(9) 自分の健康に関心を持ち病気の予防などに必要な活動を進んで行う	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感⑨ ・子どもの体調の変化に気を配り、問題のあった場合には適切に対処する ・子どもが危険な場所や危険な遊び方を理解し、安全に気を付けて行動できるように保育する	6.17	0.88	
	学生の日常生活⑨ 普段から健康に関心を持ち、ケガや病気予防に努めている	5.80	1.31	0.484**
安全	(10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する	平均値	SD	r
	「健康」保育者効力感⑩ 子どもが交通安全の習慣や災害時の行動の仕方を理解し、身につけることができるように保育する	5.89	1.00	
	学生の日常生活⑩ 普段から危険情報に敏感で、災害に備えて準備している	4.91	1.59	

** 相関は1%水準で有意、* 相関は5%水準で有意

IV. 考察

1. 保育内容「健康」の理解度と「健康」保育者効力感の関連性

領域「健康」の理解度に対する自己評価の平均値は、6.07 (SD:0.77) であった。大多数のものが十分に理解したと自己評価したと考えられる。「健康」保育者効力感の平均値は、5.88 (SD:0.73) であった。このような授業を通じた「健康」に対する理解度と「健康」保育者効力感との関連性が認められたことは、授業に対する自己評価を高めることが効力感の向上につながる可能性が示唆された。

2. 「健康」保育者効力感と学生の日常生活の関連性

「健康」保育者効力感の内容 10 項目のうち 5 項目 (①戸外遊び, ②楽しんで取り組む, ③生活リズム, ④清潔, ⑤病気の予防) について正の有意な相関が認められた。学生の身近なモデルとなる 5 年目までの保育者の「健康」保育者効力感も現在の生活状況と関連している (田辺, 2011; 齋藤 2018) が, 該当する項目は異なる (表 5)。

表5 「健康」保育者効力感と日常生活の関連

	対象者	①安定感	②身体活動	③戸外遊び	④楽しんで取り組む	⑤食育	⑥生活リズム	⑦清潔	⑧見通し	⑨病気の予防	⑩安全
齋藤 (2018)	保育士 (5年目まで)				○	○	○	○			
本研究	学生 (20歳まで)			○	○		○		○	○	

対象によって関連する項目が一部異なるが, 本研究の結果からも「健康」保育者効力感はお対象者の日常生活へ影響する可能性が示唆された。相関する項目については, 共通するものと異なるものが認められた。子どもに対する心身を育む行為について, 学生や保育経験が5年未満の保育者においては, 現場経験や保育行為に対する知識や実践力の少なさから試行錯誤しながら行っている (川畑, 2019) ことは, 共通する項目と異なる項目が見られたことから示唆される。学生の「健康」保育者効力感の相関数が上回ったのも, 自己の能力を正しく評価しているつもりのもので, 保育経験の少なさから仮想的なものである可能性が高い。効力感はお学生生活を通じて変化するものであり, 授業に対する理解度の自己評価が高いことも含めて, 講義を通して得た知識や経験によって一時的に高まった可能性は否定できない。たやすく成功するような体験のみで自己効力感が作り上げられてしまうと, 即自的な結果を期待するようになり, 失敗するとすぐに落胆してしまう脆弱なものとなる (Bandura, 1995) 点からも注意が必要であると考えられる。5年目までの保育者を成長モデルと仮定するならば, 近年, 偏った栄養摂取, 朝食欠食など食生活の乱れや肥満・瘦身傾向など, 子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化していることを受けて, 保育の現場で重視されていると考えられる食育や気づきにくい現場では重視されることが考えられる身の回りの清潔については, 将来子どもたちの健康に携わることが期待されるであろう学生がその重要性に気づきかけとすることや学生生活の現状から自分の生活を見直すように働きかけを行う必要があるのかもしれない。

保育施設が学生に求めるものとして, 技術・技能より資質であり, 養成校においても即戦

力の保育者養成ではなく、終生自身の資質や技術・技能を伸ばすことを主眼とした教育課程の構築が指摘されている（石川・長澤，2018）。自己効力感は課題特定的であるため，行動変容の高い予測機能を備えているという点が長期にわたって評価されてきた（西村ら，2012）。今後も学生の「健康」保育者効力感を定期的に測定することで支援するタイミングの判定に寄与することが可能であり，効果的な指導に役立つ可能性があると考えられる。

引用参考文献

- 厚生労働省「保育所保育指針解説」，131-143 頁。2018
- 岩崎桂子「保育者効力感研究の現状と課題」，『小池学園研究紀要』（4），77-85 頁。2009
- 齋藤めぐみ「領域「健康」保育者効力感に影響を与える要因の検討 - 保育者を対象とした質問紙調査による横断研究 - 」『千葉敬愛短期大学紀要』（40），133-142 頁，2018
- 川畑和也「保育者養成課程学生の資質に関する一考察 - 領域「健康」に着目して - 」『豊岡短期大学論集』16:131-138 頁，2020
- 佐々木由美子・大谷真理子「保育者はどのように育つのか - 保育者効力感および保育者アイデンティティの研究動向と課題 - 」『東京未来大学実習サポートセンター紀要』。3: 61-69 頁，2016
- 足立里美・柴崎正行「保育者アイデンティティの形成過程における「揺らぎ」と再構築の構造についての検討 - 担当保育者に焦点をあてて - 」『保育学研究』48(2): 213-224 頁。2010
- 三木知子・桜井茂男「保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響」『教育心理学研究』46(2) :83 頁，1998
- 西山修「幼児の人とかかわる力を育むための多次元保育者効力感尺度の作成」『保育学研究』44 (2) ，151 頁，2006
- 田辺昌吾「心身ともに健康な子どもを育むための保育者の資質について—「健康」保育者効力感からの検討—」『四天王寺大学紀要』（51）179 頁，2011
- 神谷 哲司「保育者養成系短期大学生の保育者効力感の縦断的变化 - 実習時期と就職活動を通じた進路選択過程に着目して - 」『キャリア教育研究』28(1)，9-17 頁 2009
- Bandura A. “Self-efficacy:toward a unifying theory of behavioral change” *Psychol Review*, 84:191-215。1977
- Bandura A. “Self-efficacy in Changing Societies” ,New York: NY:Cambridge University Press 1995(本明寛・野口京子監訳，春木豊・山本多喜司訳「激動社会の中の自己効力」『金子書房』1997
- 丹藤進「教師効力感の研究 - 循環モデルに向けて - 」『青森中央学院大学紀要』7:21-44 頁。2005
- 石川拓治・長澤貴「保育士・幼稚園教諭実習生に求められる資質及び技能についての一考察」『鈴鹿大学短期大学紀要』1 : 249-272 頁。2018

西村薫・野村良太・丸野俊一「自己効力感に関する研究の展望と今後の研究課題 - 展望的自己効力感の提唱 - 」『九州大学大学院人間環境学研究院紀要』13 : 1-9 頁。2012

Abstract

The purpose of this study was to examine the relationship between self-evaluation of comprehension of the domain "health" class (hereafter, self-evaluation) and efficacy for "health" specialized in the domain "health" (hereafter, efficacy). Was that. Furthermore, the relationship with daily life, which was thought to be related to efficacy, was also examined.

A correlation analysis was performed on the 54 subjects who agreed to the survey, and a significant positive correlation was found between the mean values of self-evaluation and efficacy ($r=0.526$). "Health" A positive and significant correlation was found for the five items of daily life, which was considered to be related to the nursery teacher's efficacy and "health": playing outdoors, having fun working, life rhythm, cleanliness, and disease prevention.

(資料)

領域「健康」保育者効力感に関する調査

この質問紙は、調査の説明（1枚）、質問項目（2枚）の合計3ページから構成されています。質問紙に落丁がないか確認してください。質問に回答していただく前に、まず初めに、調査の目的及び諸注意を読んでいただきます（本ページ）。次に、いくつかの質問に答えていただきます（次ページから）。質問の内容は、領域「健康」の学習の自己評価、保育者効力感及び日常生活に関する簡単なアンケートとなっておりますので、あまり考えすぎずに気楽に回答するようにして下さい。ただし、似たような質問がいくつか含まれていますが、それぞれ微妙に異なりますので、読み落としが無いようによく注意して下さい。

この調査の目的は、みなさんの学習状況や領域「健康」に対する自己効力感（質問の状況においてどのくらい実現できる能力があると思っているか）などを集団としてその傾向を明らかにしようとするものであり、個別的に測定することを目的として行っているものではありません。また、質問に対する回答は条件ごとに集計するため、全て匿名のものとして扱います。調査結果全般についての問い合わせにはお答えできますが、個別的な回答結果については回答者ご本人からの問い合わせである場合を除きお答えいたしません。

以上の目的を吟味し、アンケートに協力しないことも可能です。アンケートを拒否することで成績等に不利益をもたらすことはありません。最後になりましたが、皆様から得たデータは、研究目的以外では使用しないことをここに確約いたします。

所属： 教育学部教育福祉学科

年齢： 歳（2021年12月末時点）

性別：（男・女）

〒661-0976 尼崎市潮江1丁目3番23号 関西国際大学教育学部（電話）06-6498-4755

調査者： 大平 誠也（おおひら せいや）

1. 領域「健康」の理解度について

あなたの今回受講した領域「健康」の理解度について、あてはまるものを一つ選んで□の中に○印を記入してください

項目	番号		非常にそ う思う	そう思 う	少しそ う思 う	どちら とも いえ ない	あまり そ う思 わ ない	そう思 わ ない	全くそ う思 わ ない
0	0	領域「健康」の授業内容を十分に理解した							

以下の保育者として必要だと考えられるそれぞれの項目についてもあてはまるものを一つ選んで□の中に○印を記入してください。

項目	番号		確実に でき そう	かなり でき そう	やや でき そう	どちら とも いえ ない	やや でき そう に な い	かなり でき そう に な い	全く でき そう に な い
1	1	子どもが友だちとかかわることで充実感や満足感を味わえるように保育する							
2	2	子どもが十分に全身を動かし、進んで運動するように援助する							
3	3	子どもが戸外で過ごすことの心地よさや楽しさを十分に味わえるように保育する							
4	4	子どもの活動への取り組みの様子を見極め、必要に応じて子どもの意欲を喚起するように援助する							
5	5	子どもが食にかかわる体験を積み、食に興味を持つように保育する							
6	6	子ども一人一人の生活リズムを把握し、それらに応じながら活動と休息の調和を図り、保育する							
	7	保護者に子どもが健康な生活リズムを身につけることの大切さを伝え、家庭での生活の仕方についての理解を促す							
7	8	基本的な生活習慣を子ども自ら望んで行うように援助する							
	9	子どもが社会生活上の習慣や態度を身につけることができるように援助する							
8	10	集団での生活で必要とされるきまりや約束の大切さに子ども自らが気づき自ら守ろうとする態度を育む保育をする							
9	11	子どもの体調の変化に気を配り、問題があった場合には適切に対処する							
	12	子どもが危険な場所や危険な遊び方を理解し、安全に気を付けて行動できるように保育する							
10	13	子どもが交通安全の習慣や災害時の行動の仕方を理解し、身につけることができるように保育する							

2. 日常生活について

あなたの日常生活で以下のそれぞれの項目についてもあてはまるものを一つ選んで□の中に○印を記入してください。

項目	番号		確実にあてはまる	かなりあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	ややそうでない	かなりそうでない	全くそうでない
	1	なんでも話せる友人や家族がいる							
	2	体を動かすことが好きである							
	3	戸外での活動が好きである							
	4	学業以外に色々な活動に参加する意欲がある							
	5	食べるのが好きである							
	6	普段から健康な生活習慣に気を付け、実践しようとしている							
	7	普段から身の回りの清潔に気を付けている							
	8	普段からルールやマナーの遵守（決まりを守る）に気を付けている							
	9	普段から健康に関心を持ち、ケガや病気予防に努めている							
	10	普段から危険情報に敏感で、災害に備えて準備している							

調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。